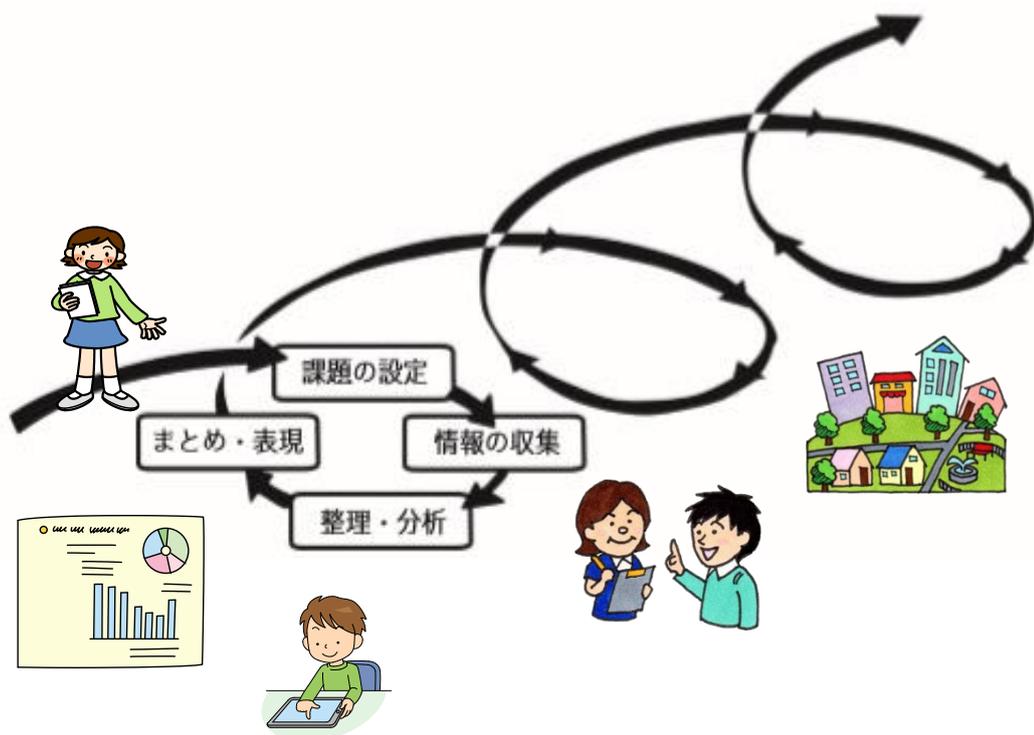


そうごうてき がくしゅう じかん

総合的な学習の時間

ガイドブック



下野市立

学校

年 組 氏名



総合的な学習の時間とは



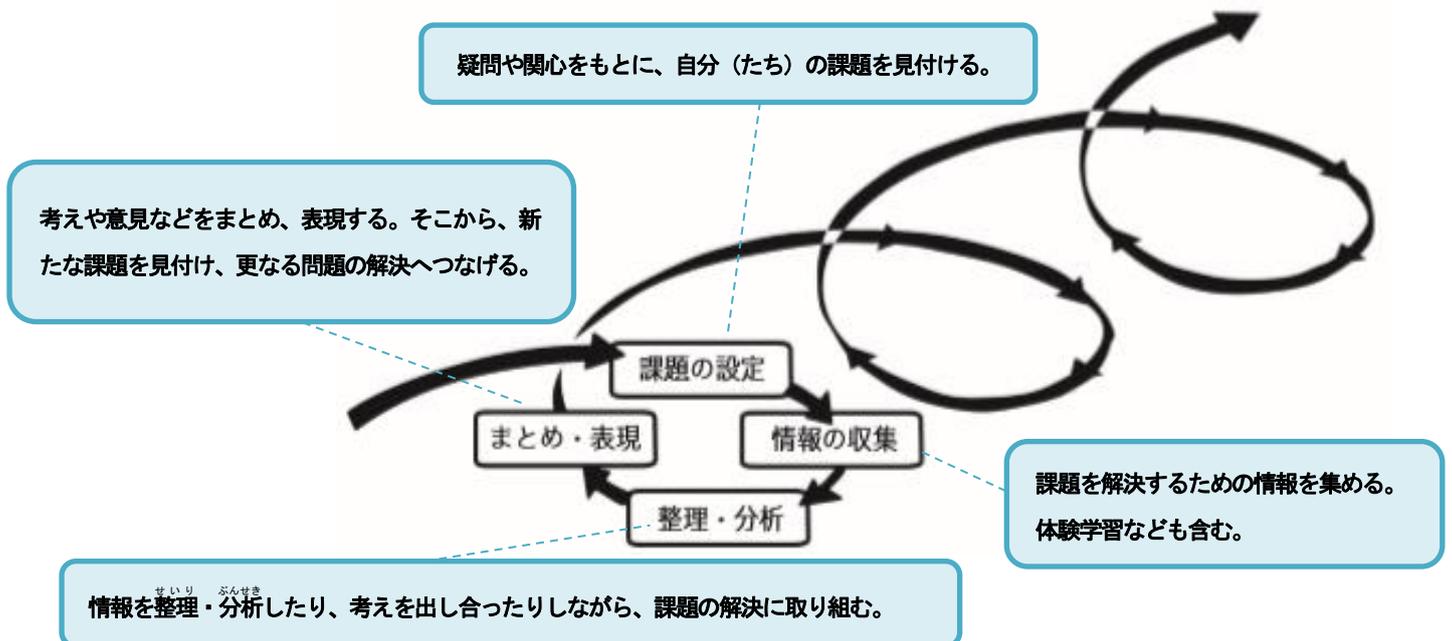
みなさんの身の回りの生活や地域・社会の中で、「～ってなんだろう」「～ってどういうことなのだろう」と不思議に思ったり、興味・関心をもったりしていることはないでしょうか。総合的な学習の時間では、みなさん自身の生活や地域をよりよいものにしていこうとする思いや、「私（私たち）は～していきたい」という願いをかなえるために、一人で考えたり調べたりするだけでなく、地域に出かけて、様々な体験活動に取り組んだり、多くの人々と出会ったりしながら、よりよく課題解決を目指していきます。

社会の中での出来事や問題について、自分自身だけでなく、仲間や地域の人たちとも一緒に考えたり、自分の生き方を考えたりして行くことは、これからの社会で活躍するみなさん一人一人の成長につながります。仲間とともに学ぶ総合的な学習の時間を目指しましょう。



総合的な学習の時間のすすめかた

総合的な学習の時間では下図のような学習活動が繰り返されていきます。



※このような学習活動は、いつも順序よく繰り返されるわけではありません。課題の解決に向けて調べた情報をもとに考える中で、新たな疑問が出てきて、何度も調べ直したりすることもよくあります。自分たちの学習が「今どの段階にあるのか」を確認することが大切です。

学習の流れ

かだい せってい
課題の設定

1 課題を見付ける pp.4~10

じょうほう しゅうしゅう
情報の収集

2 情報を集める pp.11~16

せいり ぶんせき
整理・分析

3 調べたことをもとに考える pp.17~21

4 いろいろな思考ツール p.22

まとめ ほんびょう
まとめ・発表

5 考えをまとめ、伝える pp.23~28

6 学習を振り返り、新たな課題につなげる p.29

【参考資料】

◇レポートの書き方 p.30

◇意見文の書き方 p.31



総合的な学習の時間で身に付けたい力

【学校教育目標】



そうごうてき がくしゅう
【総合的な学習の時間の目標】



たんきゅうかだい
【探究課題】

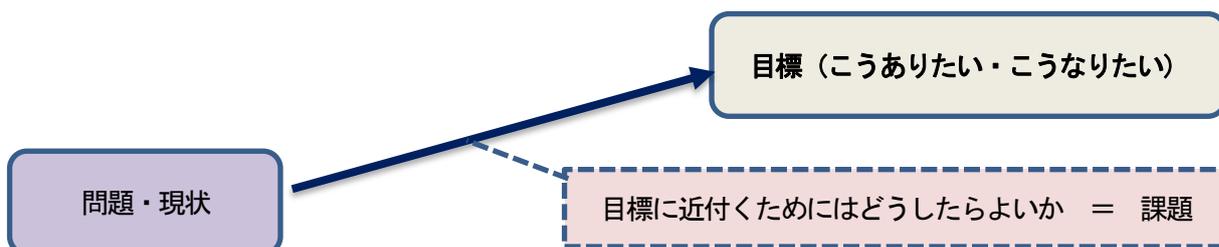
1

課題を見付ける



日頃の生活や、社会に目を向けたとき、「なぜだろう」「不思議だな」と思うことはありませんか。そのような中から生まれた自分の疑問などをもとに、「解決したい」「何とかしたい!」と思えるような課題意識をもつことが大切です。

問題となっていることや現在の状況と、「こうありたい」「こうなりたい」という目標との「ずれ」や「隔たり」、目標に対する「可能性」や「あこがれ」から、課題が生まれてきます。



このような手がかりをもとに、課題をつくります。

- ・ これまでに学習してきたことの振り返りから
- ・ 「不思議だ」「なぜだろうか」という疑問から
- ・ 「気になるな」という違和感から
- ・ 「意外だった」「知らなかった」という驚きから
- ・ 現実の状況と理想の姿との比較から
- ・ 資料などを比べて気付いたことから
- ・ 地域の人や専門家との交流や、体験して気付いたことから

昔は・・・だったのに、なぜ今は・・・なの
だろう (時間軸)
この場所では・・・だけれど、他の場所
は・・・ (空間軸)
時間軸・空間軸を使って考えてみてね。



一人一人の気付きを出し合って課題をつくるために、以下の方法をヒントにしてみよう!

◇体験活動での気付きを比べてみよう

◇資料やデータを比べてみよう

◇グラフの推移を予測してみよう

◇カードで整理してみよう

◇問題の重要度などを順序付けてみよう

◇ウェビングでイメージを広げたり関連付けたりしてみよう

具体的に見てみましょう→

◇体験活動での気づきを比べて課題をつくる



例えば、「〇〇川の上流と下流の探検」「A地区とB地区を歩いて見付けたこと」など、体験活動で気付いたことを比べてみることで、「どこが違うのか」「どうして違うのか」などの問題に気づき、課題をつくることにつながります。

ポイント

- 予想を立てる。
調査前に予想を立てることで、実際の様子との違いがはっきりします。
- ノートやカードなどを利用する。
気付いたことや発見したこと、疑問に思ったことなどをその場で記録しよう。
- デジタルカメラやiPadなど情報機器を活用する。
必要に応じて写真や動画などに残す。
- 他の教科などで学習したことを生かす。



予想	実際

◇資料やデータを比べて課題をつくる



例えば、二つの資料を比べることで、疑問が生まれやすくなります。その疑問を出し合ったり、資料の共通点や違う点からその原因を考えたりすることで、課題をつくることができます。

ポイント

- 「同じ場所の、今と昔の写真」「2枚の写真」など比べやすいものを選んでみる。
- 共通点や違いを見付ける。
「どこが違う」「いつから違う」などの原因や背景を考えてみましょう。時間軸・空間軸
- 他の教科などで学習したことを生かす。
理科、社会、算数（数学）などの学習を生かして、資料を読み取ってみましょう。



()	()

※左側-右側は 予想-実際 過去-現在 同じこと-違うこと など視点を決めて比較できるように記録しましょう。

◇グラフの推移を予測して課題をつくる



グラフなどの統計資料の推移に目を向けて、今後を予測したり、問題点を見付けたりしてみよう。
読み取ったことを根拠に課題をつくりましょう。

ポイント

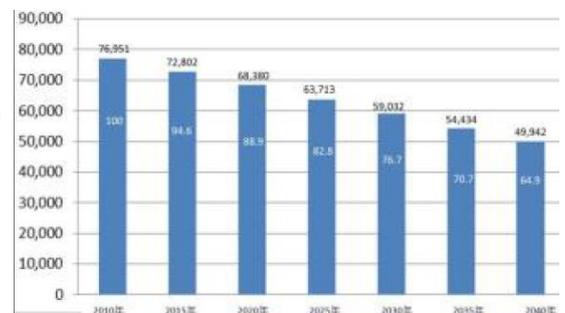
- 予想を立てる。
自分の予想と実際のデータとの間に出てくる「ずれ」や「違い」をもとに話し合う。
- ワークシート等に自分の考えを書く。
グラフから分かることや疑問点、今後の予測などについて自分の考えを書く。
- 理科や社会、算数（数学）などで学習したことを生かす。
①表題、単位、数量を読み取る ②傾向を読み取る ③予測する ④自分なりの説明をする
- 資料の特徴をグラフから読み取る。
「グラフから言えること」「全体的な傾向」「それぞれのグラフの特徴」
- 各自で課題をもつ。
「地域の活性化に向けて、自分たちにできることは何か」など

課題設定例：

グラフの傾向から、20年後、〇〇市の人口は減少していくことが予想される。

→課題「地域の活性化に向けて、自分たちにできることは何か」

例：〇〇市 人口推移の予想グラフ



メモ

◇カードで整理して課題をつくる



カードや付せんを使って、体験活動などから生まれた気づきや疑問を整理して課題をつくりましょう。

ポイント

○ カードや付せんの使い方

- ・カード（付せん）1枚に対して一つの気づきや内容を書く。
- ・同じような内容でまとめ、見出しやキーワードを付ける。
- ・見出しやキーワードをもとにみんなで話し合い、課題を見付ける。



例：著名人ちよめいじんの生き方を考える



見出しやキーワードをもとに課題を見付ける例

- ・くじけずに夢を実現することができたのは、なぜだろうか。
- ・自分たちに生かせそうなところは何か。

メモ

◇問題の重要度などを順序付けて課題をつくる



体験などから明らかになった問題を順序付けて整理することで、課題をつくることができます。

ポイント

- カードや付せんふせんに課題の候補こうほを（キーワードで）書き出す。
- 順序付ける視点（基準）を考える。
例）「実現可能かどうか」「社会的な価値があるか」「テーマと合っているか」など
- 視点してんを使って話し合い、課題をつくる。

例：

〇〇川の下流かりゆうが汚よごれている

〇〇川の汚よごれに無関心むかんしんな人々

川の生き物にとって適てきした環境ではない



課題（例） 〇〇川の環境を守るための取組を進めよう



調べること

- ・川の汚よごれの原因
- ・川の生き物の様子
- ・川の環境保かんきょうほぜん全に関わっている人々の取組



メモ

◇ウェビングでイメージを広げたり関連付けたりして課題をつくる

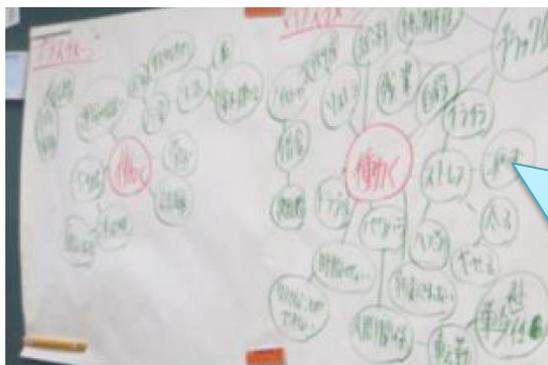


ウェビングを使ってテーマについてのイメージを広げ、テーマを様々な視点からとらえたり、具体的にとらえたりして課題をつくりましょう。

ポイント

- ウェビングの中心テーマを決める。
例：学年で決めたテーマ、地域の特色などの題材、体験活動など
- ウェビングで自分の中のイメージを広げる（みんなでイメージを広げることもある）。
- 完成したウェビング図を分析する。
例）同じ内容を線で囲む・関係のあるキーワードを線をつなぐ・重要だと思う所に印を付ける
- 友達の考えと比べながら、グループや学級の課題を明らかにしていく。

例：「働くこと」のイメージ



ウェビングを使った話し合いの例

- ① 「働くこと」について、自分たちが持っているプラスイメージとマイナスイメージを自由に出し合ってみる。
- ② できあがったウェビングを見ながら、「働くこと」について話し合う。
(働いている人は、どんな思いだろう・・・)

メモ

2

課題を解決するための情報を集める



課題を解決するためには、必要な情報を集めることが大切です。情報を集めるには、見学や観察、実験などで調べたり、実際に体験したりするなど様々な方法があります。自分たちの課題の解決につながるように、適切な方法を選びましょう。また、集めた情報はきちんと保存しておきましょう。

自分たちで調べる	<input type="checkbox"/> 本、図書などの書籍、グラフなどの統計資料 <input type="checkbox"/> インターネット（情報の信頼性に注意する。出典を明らかにする。） <input type="checkbox"/> 見学、観察、実験、調査 <input type="checkbox"/> 体験学習
詳しい人に聞く	<input type="checkbox"/> インタビュー <input type="checkbox"/> 学校に来てもらい、話（講話など）を聞く <input type="checkbox"/> 電話、メール、FAXなど
たくさんの人の意見を知りたい	<input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> フリップボードによる調査



言語化された情報	<input type="checkbox"/> 本、図書などの書籍から <input type="checkbox"/> インターネットから <input type="checkbox"/> インタビュー、アンケート、講話から
数値化された情報	<input type="checkbox"/> グラフなどの統計資料から <input type="checkbox"/> フリップボード <input type="checkbox"/> 実験の結果から
体験で得られたこと	<input type="checkbox"/> 体験活動、作業などを通して



情報を集めるときのポイント

目的を考える	何のために情報を集めるのかを確認する。
内容を考える	何を調べるのか、はっきりさせる。
方法を考える	目的・内容に応じて、どのように調べるのか、適切な方法を決める。
保存の方法を考える	課題の解決に役立つように、必要に応じて集めた情報を保存する。

◇アンケート調査で情報を集める



アンケートは、多くの人の意見を集めて、その傾向を知りたいときに行います。聞きたいことを端的に表し、答えやすい簡単な質問を用意することで、多くの人のデータを集めることができます。また、質問の仕方や質問する相手によって結果が異なってくるので、アンケートをとる前に計画を立てることも大切です。

ポイント

- 調査の目的や相手を誰にするのかを明らかにする。
- 短く、分かりやすい質問文にする。
- 短時間で回答できるようにする。質問項目を多くしない。
- まずは答えやすい質問から始める。



下野市にお住まいの方へのアンケート（例）

私たちは今、「かんぴょう」の料理について調査をしています。

- ① かんぴょうと聞いて、思いつく料理は何ですか。
 - ② かんぴょうを使った料理で、食べてみたい料理はありますか。
 - ③ 下の絵は「下野ブランド」として私達が提案しようと考えている料理です。食べてみたいものを1つ選んでください。
- 下野市立〇〇学校〇年〇組

◇フリップボードで情報を集める



フリップボードを提示してインタビューする方法は、質問内容が伝わりやすいだけでなく、言葉とあわせて使えるため、確実に情報を集めることができます

ポイント

- ボードを見せながら話すと、質問内容が伝わりやすい。
- あらかじめ、何通りかの答えを用意しておく、短時間で回答してもらえる。
- 集計表を付けておくなど、集計の方法についても確認しておくとい。



〇〇市の魅力は何だと思えますか？	
1 自然	●●
2 温泉	●●●●●●
3 食べ物	●●●●

◇図書館などで情報を集める



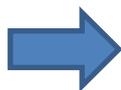
総合的な学習の時間で生まれた様々な疑問の解決のために、図書館等を利用して情報を集めることはとても有効です。たくさんの図書の中から、目的に合った書籍等の検索方法を身に付けることで、図書館等の施設を有効に活用することができます。

ポイント

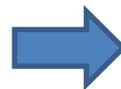
- 図書館の本は、決められた分類法によって内容別に並んでいる。目的に応じた本をすぐ探せるようにしよう。
- 本や新聞を使って調べたときは、情報源を必ず明らかにする。
 - 題名 □ 著者名 □ 発行日（新聞） □ 刊行された年月（図書） など
- 「出典」「参考資料」として調べたことを使うようにする。

例) 分類

200	歴史
300	社会学
400	自然科学
500	技術・工学



430	数学
440	物理学
450	科学
460	天文学



450
ア
1



◇インターネットで情報を集める



総合的な学習の時間で生まれたさまざまな疑問に対する情報を検索できるインターネットは便利ですが、この方法で情報を集めるときには細心の注意が必要です。

ポイント

- 情報の信頼性を確かめる。
 - ホームページにのっていることが確かな情報かどうかよく吟味することが大切です。
- 著作権などへ配慮する。
 - 必要な情報も簡単に手に入りますが、著作権に気を付ける必要があります。
- 個人情報大切に。
 - 注) インターネットで調べたことをそのまま書き写して終わるのではなく、調べたことをもとに考えたり、実際の調査活動を行ったりすることも大切です。



著作権と著作物



<著作権>

文学や音楽、美術などの作品を、その作者などが、出版・録音・上映・放送・展示などを自由に独占することができる権利。（【出典：例解新国語辞典第五版，三省堂】）

【作者の気持ちに反するような、作品の扱い方をしてはいけません】

- 作者の了解なしに、みんなに見せてはいけません。
- 作者の了解なしに、作者の名前を公表してはいけません。
- 作者の了解なしに、作品を変えてはいけません。

（参考：「みんなのための著作権教室<http://kids.cric.or.jp/intro/01.html>」）



<著作物>

- 1) 小説、脚本、論文、講演そのほかの言語の著作物
- 2) 音楽の著作物（曲、歌詞）
- 3) 舞踊または無言劇の著作物
- 4) 絵画、版画、彫刻そのほかの著作物（マンガも含まれる）
- 5) 建築の著作物
- 6) 地図または学術的な図面、図表、模型そのほかの図形の著作物
- 7) 写真の著作物（人や風景など）
- 8) 映画の著作物
- 9) プログラムの著作物（コンピュータプログラムのこと）

（参考：「みんなのための著作権教室<http://kids.cric.or.jp/intro/01.html>」）



ちょっと待って、そのコピー！
著作権は、身近で大切なルールだよ。





◇実験・観察を通して必要な情報を集める

科学的な方法による実験や観察を行うことによって、客観的なデータを手に入れることができます。そのことにより、自分の考えを明らかにしたり、自分の考えを説得力のあるものへと高めたりすることができます。

ポイント

- 実験・観察・測定の目的をはっきりさせる。
何のために実験や観察や測定をするのか明らかにしておきましょう。
- 実験・観察・測定方法を工夫する。
自分の手で実際にできる実験等の方法を考えることが大切です。
- 分析・考察のための収集をする。
実験や観察の結果などを表などに分かりやすくまとめ、データに基づいて考察することが大切です。
- 測定する場合は、何度も試して平均値を求める。
- 理科の実験方法なども活用する。



目的	
方法	
結果の予想 (仮説)	
結果	
考察	

◇集めた情報を集積する



活動の記録や集めた資料にインデックスやタイトルを付けて整理することで、情報が内容ごとに整理されます。さらに、情報を再確認したいときや、自分の学びを振り返りたいときなどに、簡単に取り出すことができます。

ポイント

- 集めた情報を時間順にファイリングする。
日付や通し番号を付けておくと整理しやすい。
- 時間順から内容別へまとめ直す。
時間順でファイリングしていた情報を、分野や内容ごとに整理する活動を行う。



◇集めた情報をタブレットなどの情報機器に集積する



調査したことをフォルダに集めておくことで、体験活動などで集めた様々な情報を整理して保存することができます。集めた情報の取り出しも簡単にできるだけでなく、コンピュータ内のソフトを使ってグラフや表に加工することもできます。

ポイント

- 調査したことに応じてフォルダをつくる。
例) フォルダ1 「川の水質調査」 → (上流、中流、下流)
フォルダ2 「インタビュー結果」 → (専門家、地域の方)
フォルダ3 「現地取材の画像」 → (日ごと、場所ごとなど)
- 集めた情報をフォルダに整理して保存する。
- フォルダ内の情報を、みんなで使えるようにする。



3 調べたことをもとに考える（整理・分析）



課題の解決のために調べて得たたくさんの情報は、そのままでは使いにくいことがあります。情報を分類したり、関連付けたり、様々な視点から分析したりしながら、自分たちの考えをつくったり話し合ったりする学習を大切にしましょう。



考えたり話し合ったりする場面のポイント

- 集めた情報を、もう一度吟味する。
 - ・どのようにして集めた情報か
 - ・どのような内容の情報か
 - ・客観的なデータ、公式に発表されているものか（個人的な意見や転用ではないか）
- どのような方法で情報の整理や分析を行うか考える。
 - ・数値化された情報・・・グラフなどに表して特徴や傾向を見付ける（折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、帯グラフなど）
 - ・言語化された情報・・・情報をカードや付せんを書いて分類する、出来事を時間の経過に沿って並べる、調査した結果を地図などに整理して特徴を見付けるなど
- 「考えるための技法」を活用する。
 - ・情報の量や質、解決したい方向性に沿って、考えるための技法を活用してみよう

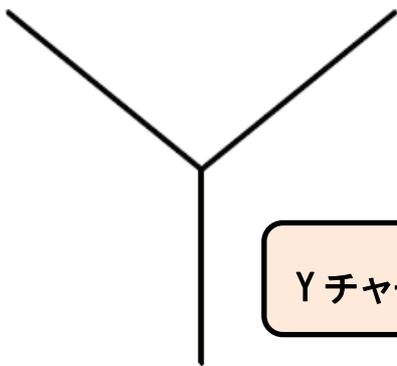
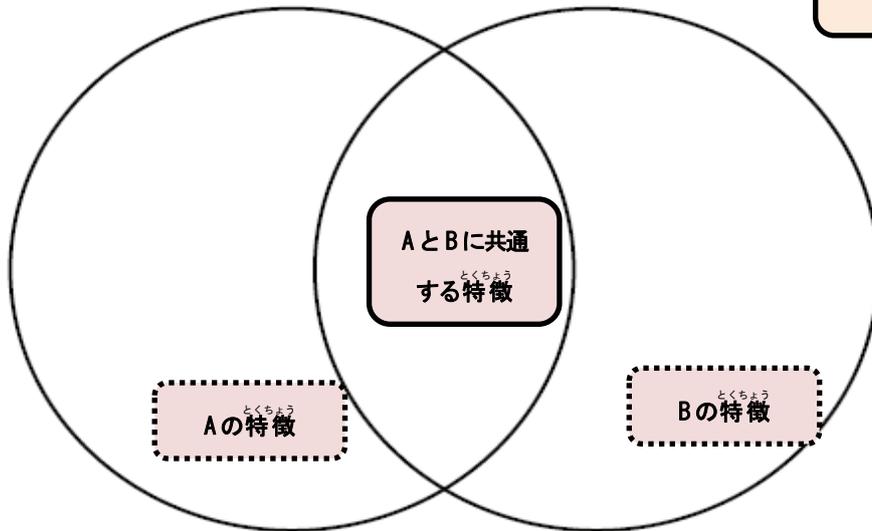


いろいろな技法があるね。
目的に応じて使い分けよう。

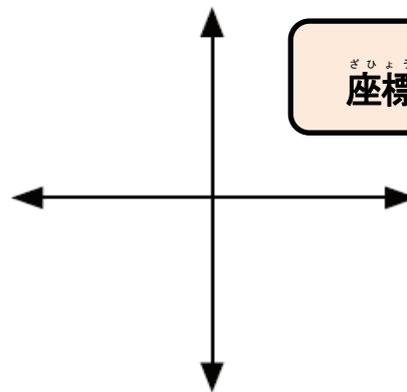
◇調べたことを比較したり、分類したりする



ベン図



Yチャート



座標軸

- 比較すると、共通点や相違点（違う点）が見付けやすい。
 - ・他のものと比べることで、そのものがもつ特徴がはっきりします。
- カードや付せんを使うと、情報やアイデアを動かしやすい。
 - ・カードを動かしたりまとめたりすることが、図の中でも簡単にできます。
 - ・カードに書くときは、他の人にも見えやすいように大きく端的に書こう。
- 分類すると特徴がはっきりする。
 - ・視点に沿った特徴が明らかになります。

◇調べたことをグラフ等で整理する



調べたことをグラフなどの統計的な手法とうけいてきを使って目に見える形で整理すると、物事の特徴を客観的に捉えたり、事実や関係を見付けたりすることに役立ちます。また、情報を客観的に整理することで、自分の考えや主張の根拠こんきよになります。

ポイント

「量」を表したいとき

例：調べた結果を棒グラフぼうに表す

（各公園に落ちていたごみの量・「〇〇川」の場所ごとの水質調査の結果など）

「変化」を表したいとき

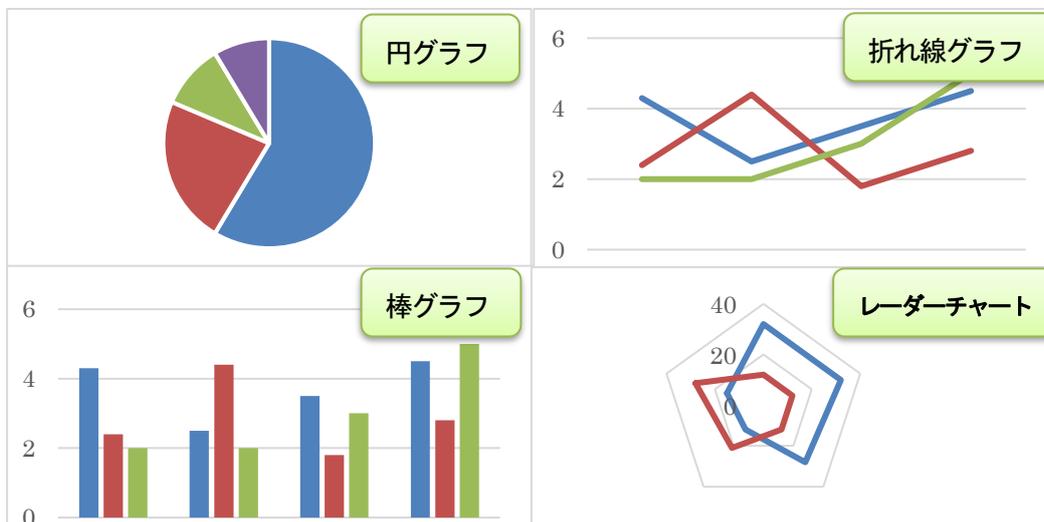
例：調べた結果を折れ線グラフせりせんに表す（学校の消費電力量・「〇〇市」の高齢者の人数こうれいしゃの変化など）

「割合」を表したいとき

例：調べた結果を円グラフ・帯グラフおびに表す（「〇〇市」の人口に占める高齢者の割合など）



どのグラフを使うと分かりやすいかな・・・。



◇マップで整理する



調べた情報をマップ（地図）上に整理することで、事実や関係を見付けたり、特徴を見いだしたりすることができます。また、整理したことから、なぜそうなのかという原因を考えることにもつながります。

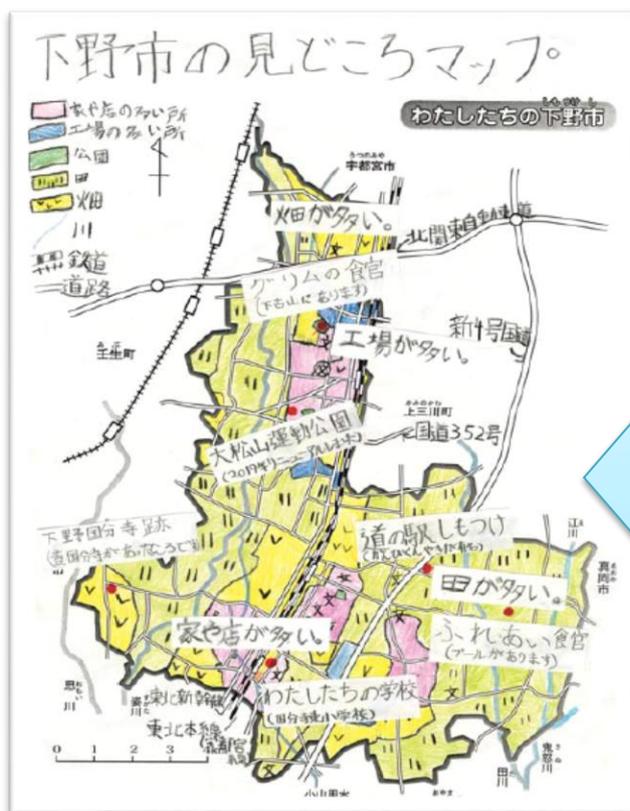
ポイント

○ 調査ポイントを、いくつか決めておく。

調査のポイントをいくつか決めておくことで、比較したり検討したりすることができ、疑問が生まれやすくなります。

○ 社会の学習とつなげる。

社会で学習した地図記号なども目的に応じて効果的に使いましょう。



←下野市の見どころについてまとめたマップ
市全体の地形や特徴が一目で分かります。
また地図記号を使ったり色別にしたことで、見やすさにもつながっています。

<他の例>

- ・植物や昆虫の分布の様子
- ・点字ブロックの敷かれている場所
- ・川の生物の分布
- ・商店街の特徴調べなど

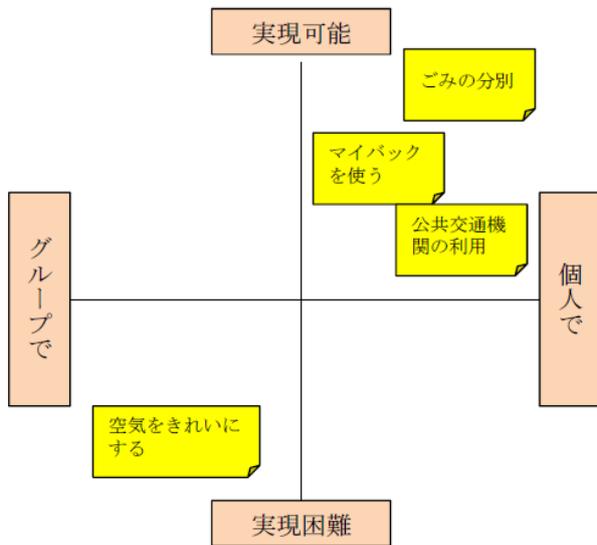


【マップから言えること】

◇視点に沿って整理する



集めた情報を座標軸ざひょうじくを使って整理することで、視点に沿った考え方ができます。また、他の人の考えと比べることもできます。



話し合いの方法

- ・アイデアや情報を付せんやカードに書き出します。
- ・座標軸ざひょうじくの視点に沿って、どこに貼ったらよいか話し合いながら進めます。



◇メリット・デメリットの視点から考える



自分たちが考えた課題解決のためのアイデアや方法、提案などについて、メリットとデメリットの両面から見直すことで、よりよいアイデアや方法にすることができます。

【アイデア・提案（例）】
壁新聞を作って、環境問題についての取組を学校の人みんなに紹介する。

メリット (よい点)	デメリット (よくない点)
<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人に見てもらえる ・写真を載せることができる ・(外さなければ)いつでも見ってもらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接、意見や感想が聞けない ・貼る場所によっては、見てもらえない ・実際に取り組んでもらえるかどうかわからない

ポイント

- ・アイデアや提案について、メリットとデメリットを書き出す。
- ・もっとよいアイデアはないかを考える。または、デメリットを改善かいぜんする方法を出し合う。

4

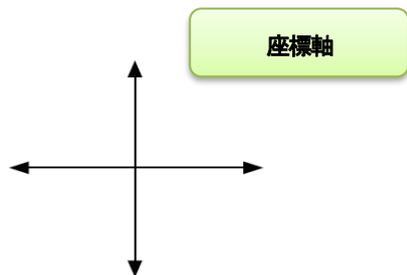
いろいろな思考ツール



P17で紹介した「考えるための技法」を「見えるようにする」道具が思考ツールです。自分たちの課題解決や話し合いの方向性を考えながら、思考ツールを積極的に使ってみよう。

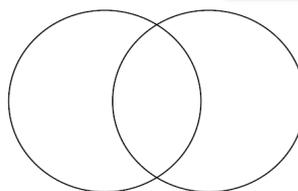
比較する・分類する・整理する

座標軸に何を設定するかを決めます。

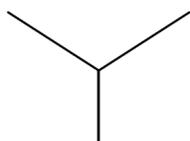


比較する

ベン図



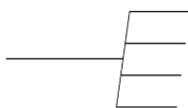
アイデアを出す・分類する・多角的に見る



Yチャート



Xチャート

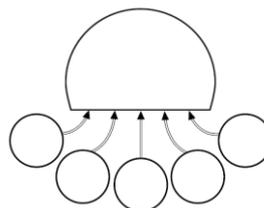


くま手チャート

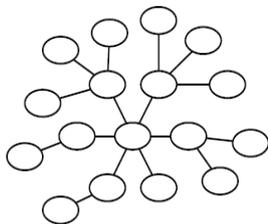
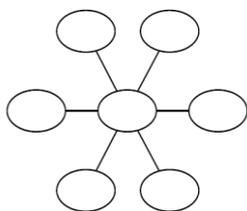
多角的：ある事象をさまざまな角度から見ること。

理由付ける・関係付ける・要約する

くらげチャート



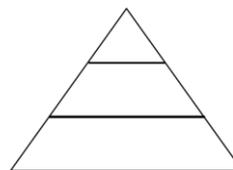
関連付ける



イメージマップ

焦点化する・構造化する

ピラミッドチャート



5 考えをまとめ、伝える



集めた情報をもとに、比較したり関連付けたりしたあと、それを他の人に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりすることが必要です。そうすることで、これまでに体験したことや調べたことがつながったり、自分自身の考えがより明らかになったり、新たな疑問が浮かんだりしてきます。自分の考えに対して友達の意見をもらうことで、自分の考えを広げたり深めたりしましょう。



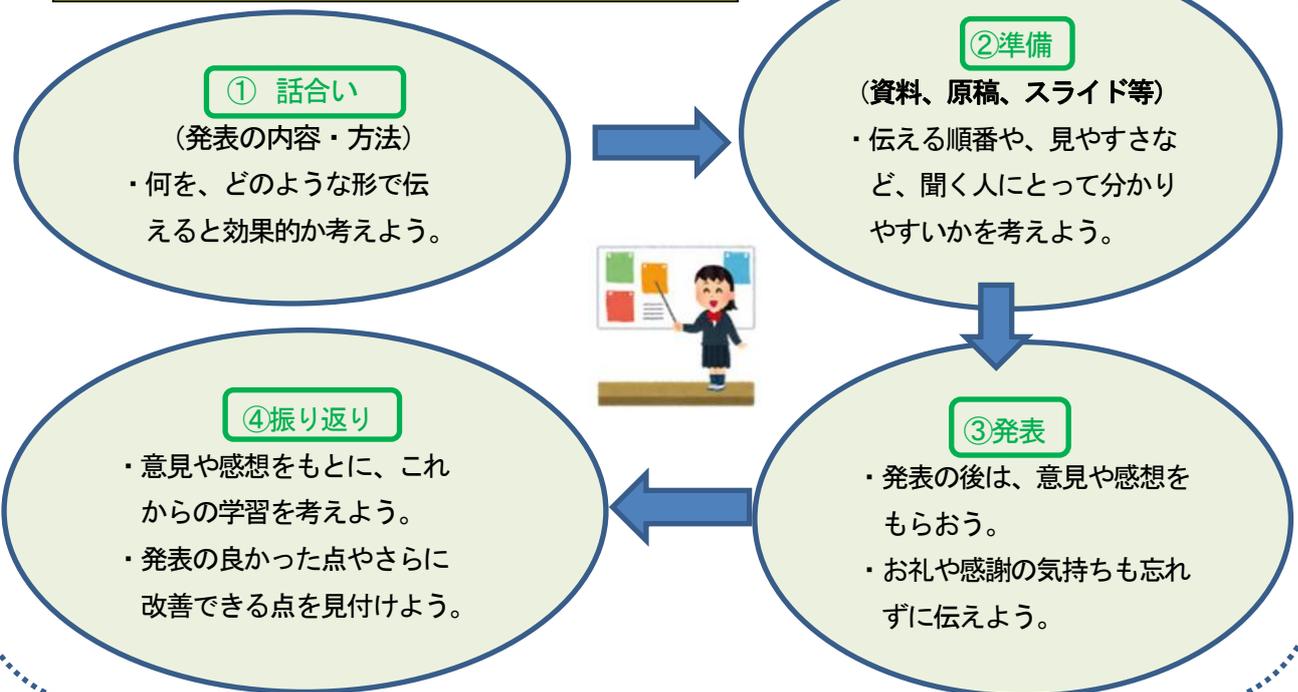
考えをまとめ、伝え合うときのポイント

- 発信する目的 ・まとめたり、発信したりする「目的」をはっきりさせよう。(目的意識)
- 誰に伝えるか ・伝える相手によって、伝える内容や伝える方法が変わってきます。(相手意識)
伝えたい内容をはっきりさせ、より効果的に伝える方法を考えよう。
- 伝える方法 ・レポートや新聞、ポスターにまとめる。写真、グラフ、図 を使ってプレゼンテーションをする など。
・文章で表現することも大切ですが、図表やグラフ、絵、音楽などを使ったり、それらを効果的に組み合わせたりして表現してみよう。



国語や社会、音楽、美術など、いろいろな教科で学習した表現方法を積極的に使おう。

グループなどで考えをまとめ、発表するまでの流れ



◇振り返りカードでまとめる



これまでの学習活動を振り返って、自分の考えを整理したり、友達と伝え合ったりすることで、自分の考えがいつそう深まります。

ポイント

- **これまでの学習活動を整理する。**
体験や考えは、詳しく書いておきましょう。振り返った時、はっきりと思い出すことができます。
- **新しく分かったことを整理する。**
友達との意見交流で、気付いたことや新たに分かったこと、考えたことなどを書いておく。自分の考えと比べてみましょう。
- **新しい課題につなげる。**
例えば、「もっと知りたいこと」「これから取り組みたいこと」などを書いてみると、次の課題が見えてきます。
- **振り返りをファイリングする。**
振り返りカードをファイリングしておくと、どのような学習活動を行い、自分はどのように考えていたのかを確かめることができます。

例：振り返りカード

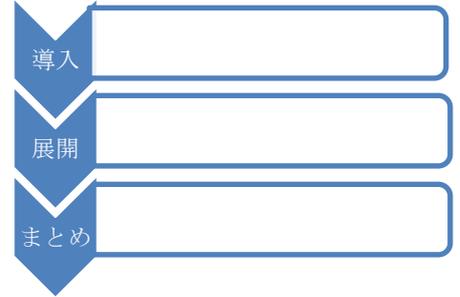
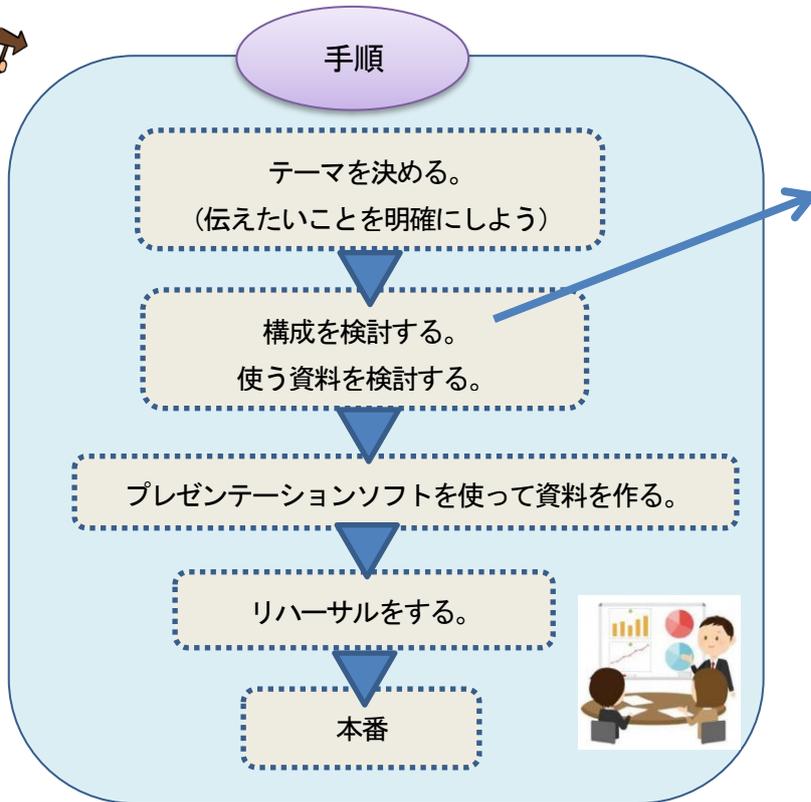
これまでの自分の学習を整理しよう。
友達の発表や話し合いから気付いたことを書こう。
「もっと知りたいこと」「取り組みたいこと」などを書こう。



◇プレゼンテーションソフトでまとめる



これまでに調べた資料や図・グラフ、写真などを効果的に使って、自分の考えを発表します。発表の目的や発表する相手に応じて、内容や方法、映し出す情報の量、構成などを工夫します。



ポイント

- 主張する点をはっきりさせる。
調べたことを基に、自分の伝えたい考えや内容をはっきりさせよう。
- 構成を工夫する。
調べた方法、結果など自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにしよう。
- 画像や動画の使い方・見せ方を工夫する。
聞き手が分かりやすいように、伝えたい言葉や画像（や動画）を選び、色使いや見出しなどを工夫しよう。

自分たちのプレゼンテーションの主張は・・・

◇新聞でまとめる



新聞でまとめるときは、記事の優先順位を決めるので、作った人の主張点が分かりやすいというよさがあります。また、自分の意見や考えをよりはっきりさせることができます。実際の新聞を参考に、オリジナル新聞などでまとめてみましょう。

ポイント

○ 記事の優先順位を決める。

主張が分かりやすく伝わるように、記事の優先順位や割り付け、見出し、分量などを工夫しましょう。

○ 自分の意見を明確にする。

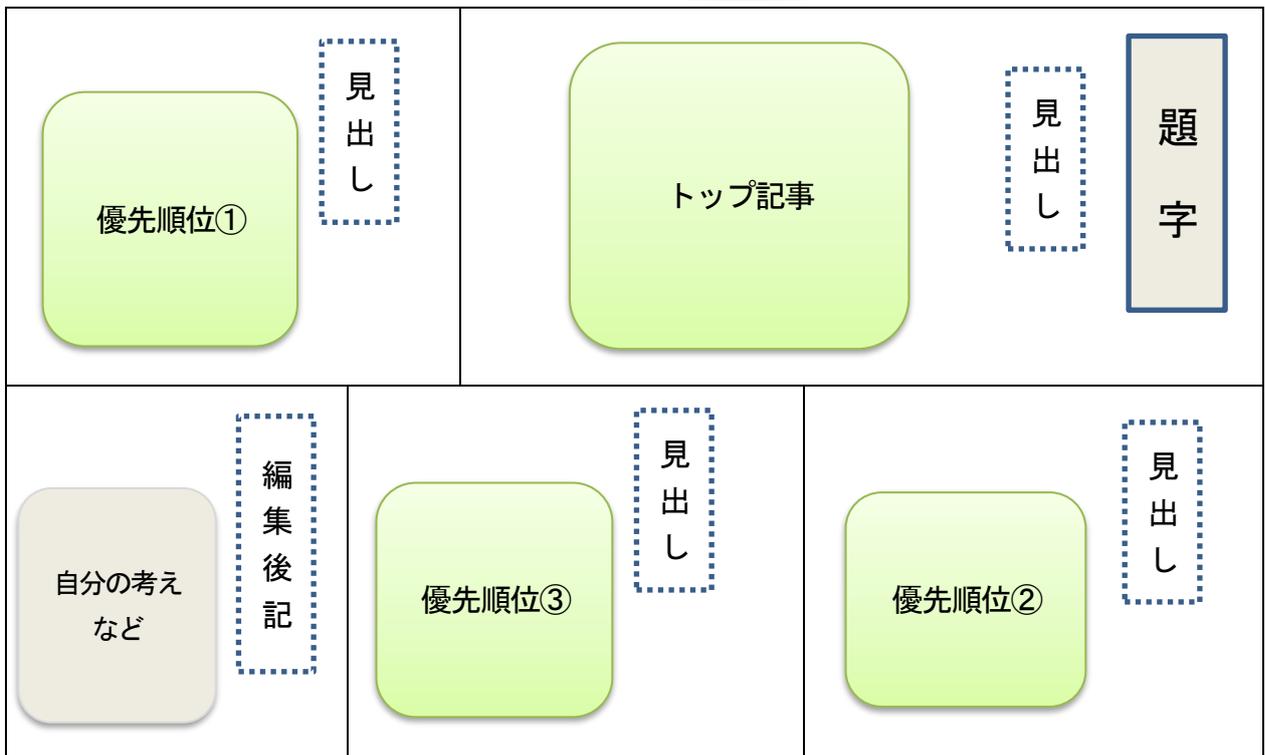
○ 国語などで学習したことを生かす。

○ 記事の量、見出しの大きさは、紙面の下の方ほど少なく、小さくする。

○ 読む人を引き付けるよう、見出しの工夫をする（体言止め、倒置法、比喩、語りかけなど）。



難しい言葉には注釈を入れたり、読みにくい漢字には読み仮名をふったりしてわかりやすく表そう。



◇パンフレットでまとめる



学習したテーマについてPRするときに、パンフレットは有効です。文字や図、写真などを効果的に使うことができます。身の回りのパンフレットを参考にして、自分たちのオリジナルパンフレットで表現してみましょう。

ポイント

- 伝えたい内容に「見出し」を付ける。
 - ・「見出し」を考え、カードや付せんに書き出す。
- 見出しを並べてパンフレットに載せる順番を決める。
 - ・どのような順番にすれば説得力せつとくりよくがあるか考える
 - ・タイトル（キャッチコピー）を考える。
- 文章、図や表、写真とのバランスを考える。
 - ・文章にあわせて、入れたい図や表、写真などを決める。
 - ・優先順位や分量などを考えてレイアウトをつくる。
 - ・パンフレットの形式を考える（1枚表裏、観音かんのんびら開き、冊子さっしなど）。
- レイアウトに従って、文章や図表を貼り付けてまとめる。
 - ・見出しは大きく目立つようにする。
 - ・短い文章で分かりやすく書く。
 - ・図や写真、文章の量を考えて書く（基本的には文章30% 図・表・写真70%）。



メモ

◇ポスターでまとめる



調査した内容や自分の思いを相手に表現する方法として、ポスターセッションがあります。ポスターでまとめるときには、主張点やポスターの構成を工夫することが大切です。身の回りのポスターも参考にしてみましょう。

ポイント

○ 主張点を明確にする。

- ・何を（内容）を誰に（相手）伝えたいのか

○ 構成を考える。

- ① 内容をしぼる
- ② タイトルを決める
- ③ 小見出しを付ける
- ④ 紙面のレイアウトを決める

○ 表現を工夫する。

- ・見出しやタイトルは、相手の心に訴える言葉を使おう。
- ・説明の文章は、簡潔で分かりやすい文章で書こう。
- ・グラフ、図、表などは、分かりやすい大きさと書こう。
- ・ポイントとなる部分は目立たせる工夫をしよう。
- ・文字は読みやすい大きさと、誤字脱字に気を付けて書こう。
- ・強調する部分には、目立つ色を使おう。



メモ



6 学習を振り返り、新たな課題へつなげる



◇自分の学習を振り返る



自分の学習を振り返って言葉で記録しておくことは、自分の考えをまとめて明確にしたり、次の学習の見通しをもったりすることにつながります。また、自分でじっくり振り返って書くことで、これまでに学んだことを捉え直すことにつながります。

ポイント

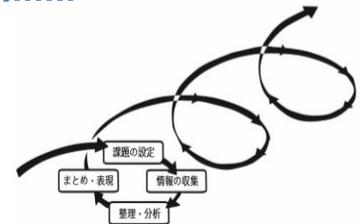
○ 振り返りの時期

いつも学習のまとめ（単元）の最後に行うとは限りません。学習を進める中で、途中でいったん立ち止まり、自分の学習を振り返って考え直してみるということもあります。

○ 振り返りの内容例

「何が分かったのか」「何ができたのか」
「どのようなことを考えたり、判断したり、表現したりしてきたのか」
「新たな考え」「自分自身のよさ」

◇疑問を新たな課題につなげる



課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という一連の学習を終えたあと、自分で更に調べてみたいこと、疑問に思ったことを整理し、次の課題へつなげましょう。自分の考えを深めることにつながります。

更に調べてみたいこと、疑問に思ったこと

【参考資料】

レポートの書き方



自分が課題について調べたことや考えたことを、他の人に分かりやすく相手に報告するためには、どのようなことに気を付ければよいでしょうか。レポートの構成に沿ってまとめる方法を確認しましょう。



調べたことを正確に報告するには

- 何について報告するのか、具体的に「課題」を示す。
- 「調査の方法」と「調査の結果」は、自分の考えを混ぜずに、事実^{しじつ}に絞^{しぼ}って書く。
- アンケート結果の数値などは、図や表、グラフなどを使って視覚^{しかくてき}的に示す。
- 自分の考えは、事実と区別して「考察」の部分に書く。

<レポート例>

題名：内容を明確に表すものにする。

人はなぜ働くのか

令和〇年〇月〇日
〇年〇組 氏名

1 課題

「人はなぜ働くのか」について、職場体験学習などを通して、いろいろな生き方について学ぶ。
(課題設定の理由) 学級活動の時間に「働くこと」について学習した。働くことについてマイナスイメージがたくさんあるのに、人はどうして働いているのか、知りたいと思ったから。

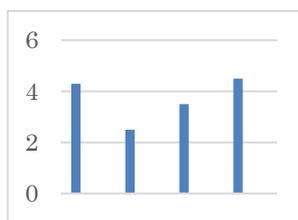
2 調査の方法

- ① 家族に、今の仕事を選んだ理由や「働くこと」の意味などについて聞く。
- ② 職場体験で、実際に働いている人たちにインタビューする。

3 調査の結果

- ① 家族
- ② 職場体験

職場体験インタビュー結果→



4 考察

今まで、働くことは「自分のため」だと思っていたけど、人のため・社会のため」という考えもあることが分かった。私が大人になって実際に働くまでに、自分の性格ややりたいことなども考えながら、自分に合った仕事を見付けたり、もう一度働くことについて考えてみたりすることが大切だと思った。

5 参考資料

- ・中学生活と進路 (実業之日本社)

【参考資料】

意見文の書き方



体験したことや、身の回りで見聞きしたこと、世の中の出来事などに対して、私たちは納得したり疑問をもったりするものです。自分の思いや意見を深め、発信するためには、自分の意見を見つめ直し、根拠を明確にして書くことが大切です。

見付ける 集める	① 課題やテーマを決める ・体験したことや見聞きしたこと、新聞やテレビ、書籍やネットなどを通して知ったりしたことの中で、興味を持った事柄から課題やテーマを決めましょう。
深める 整理する	② 意見と根拠を明らかにする ・情報を集め、自分の意見を定める。 ・意見を支える根拠を絞り込む。 ・反対意見を想定し、自分の意見を深める。
まとめる 表現する	③ 構成を考えて、意見文にまとめる ・意見と根拠、反対意見に対する考えをどのような順序で書くか、構成メモを作る。 → 注1 ④ 意見文を推敲する。 → 注2
伝え合う つなげる	⑤ 意見文を読み合って助言し合う ・意見が明確に述べられているか。 ・意見を支える根拠として、納得がいくものになっているか。 ・反対意見を検討して、自分の意見を深めているか。

注1

構成メモ (例 ゴミ問題)

意見 ゴミ問題の現状と課題
環境問題だけでなく、生態系への影響がある

根拠 川や海のへの影響 人道的にも許されない

反対意見への考え 国内で行われている資源の循環への取組

意見 (主張) 地球規模、広い視野で考えるべき

注2

推敲の際の留意点 (例)

- 文章の構成は、明確か。
- 内容に応じて段落を分けているか。
- 段落のつながりは分かりやすいか。



意見文を書く活動 を振り返ってみましょう

- 自分の意見をもつこと。
 - 十分な情報を集めて、意見をまとめましたか。
- 説得力をもたせること。
 - 文章構成を工夫して書きましたか。
 - 根拠となる事実を具体的に書きましたか。
 - 反対意見なども予想して、考えを示しましたか。

<参考資料>

今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（令和3年3月 文部科学省）
自ら考え共に学ぶ 総合的な学習の時間探究ガイドブック（大分県教育委員会）

<編集>

下野市教育委員会 学校教育課 〒329-0492 下野市笹原26

Email: gakkoukyouiku@city.shimotsuke.lg.jp

Tel: 0285-32-8918

令和3年10月

